

パーキンソン病療養の手引きの改訂

高橋良輔¹⁾、澤本伸克¹⁾、山門穂高¹⁾、中島健二²⁾、野村哲志²⁾、
野元正弘³⁾、長谷川一子⁴⁾、服部信孝⁵⁾

京都大学医学部神経内科¹⁾ 鳥取大学医学部脳神経内科²⁾、
愛媛大学医学部薬物療法・神経内科³⁾、NHO 相模原病院神経内科⁴⁾、
順天堂大学医学部脳神経内科⁵⁾

研究要旨

「パーキンソン病と関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症）の療養の手引き」が、「神経変性疾患に関する調査研究班」（主任研究者 葛原茂樹）の事業として、平成 17 年に作成された。広く利用されてきたこの手引きも発行後 10 年近くが経過した。この間に、QOL に大きな影響を与える因子として自律神経障害、睡眠障害、精神症状、認知機能障害、疼痛・感覚障害、疲労等の非運動症状が注目されて多くの知見が集積され、パーキンソン病の薬物療法、手術療法も顕著に進歩した。こうした背景から、本研究班の事業として改訂版を作成することになった。改訂版でも、前回の療養の手引きを踏襲し、Q&A 形式、イラストや図の多用、平易で簡潔な記載とする。一方、改訂版では、非運動症状についての内容をより充実させると共に、薬物療法、手術療法の進歩に対応する。神経変性班内外の有識者の協力を仰ぎ、より多くの患者さんやご家族、医療や福祉の関係者に役立つ手引きを作成する。

A. 研究目的

「パーキンソン病と関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症）の療養の手引き」は平成 17 年 3 月、当時の厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「神経変性疾患に関する調査研究班」（主任研究者 葛原茂樹）の事業として作成された。これは「研究班の成果をできるだけ分かりやすい形で、患者さんやご家族、医療や福祉の関係者に提供して、ご批判を仰ぐと同時に活用していただく」（「ごあいさつ」より引用）目的に沿ったものであった。神経難病が患者をはじめとする医師以外の関係者にとって理解しにくいことに配慮し、患者さんやご家族、医療や福祉の関

係者からよく質問される項目を抽出し、すべてが Q&A 形式で構成された、病気に関するわかりやすい手引き書に仕上げられた。これは現在も神経変性疾患領域における基盤的調査研究班（中島班）のホームページ

（<http://plaza.umin.ac.jp/~neuro2/index.html>）や難病ドットコム（<http://jpma-nanbyou.com/>）から無料でダウンロードでき、広く活用されている。しかしその後 10 年近くが経過し、その間の診療の進歩に対応する必要性が生じたため、本研究班の事業として改訂版を作成することになった。

B. 研究方法

前回の療養の手引き以来、QOL に大きな影響を与える因子として自律神経障害、睡眠障害、精神症状、認知機能障害、疼痛・感覚障害、疲労等の非運動症状が注目され、多くの知見が集積されてきたこと、パーキンソン病の薬物療法、手術療法も顕著に進歩したことに対応した改訂を行う。執筆に関しては神経変性班内外の有識者の協力を仰ぎ、より多くの患者さんやご家族、医療や福祉の関係者に役立つ手引きを作成する。

C. 研究結果

改訂版では以下の内容を含めることを計画している。

【目次】(案)

・パーキンソン病という病気について

1. 歴史

2. 疫学

3. 病因・病態

・パーキンソン病の症状

1. 運動症状

2. 非運動症状

自律神経症状

a) 消化器症状

b) 循環器系

c) 排尿障害

d) 発汗障害

e) 流涎

f) 性機能障害

睡眠障害

精神症状、認知機能障害

a) うつ

b) 幻覚

c) 妄想

d) せん妄

e) アパシー

f) 認知症

g) 衝動制御障害

疼痛、感覚障害

疲労

体重減少

3. 長期治療中における運動合併症

4. 合併する身体疾患

転倒、骨折

火傷

誤嚥、肺炎

褥創

・パーキンソン病の診断（検査を含む）

1. 診断基準

2. 臨床検査

3. 鑑別診断

PSP、CBS

MSA-P

血管性 PS

薬剤性パーキンソニズム

NPH

・パーキンソン病の経過

・パーキンソン病の治療と対応

1. 薬物療法

どのような薬剤があるか

発症早期の治療：“最初に使用される薬剤”

などの項目を含めて

進行期の治療

パーキンソン病治療薬の副作用

2. 外科的治療

3. リハビリテーション

種類

外部からの刺激、音楽療法

嚥下障害

歩行のリハビリ

日常生活における注意と自宅でのリハビリテーション

4. 非運動症状の治療

自律神経症状の治療

睡眠障害の治療

精神症状（幻覚、妄想、うつ）の治療

認知機能障害の治療

疼痛の治療

・日常生活における注意

1. 転倒予防
2. 認知症の早期発見と早期治療
3. 運転
4. 褥創
5. 栄養、胃瘻
6. 自律神経症状

D. 考察

編集の方針については、前回の療養の手引きを踏襲し、Q&A形式、イラストや図の多用、平易で簡潔な記載とする。また、患者や介護者の立場に立った記載を心がけ、メディカルスタッフにも役立っていただけるように工夫する。

改訂版では、非運動症状についての内容をより充実させると共に、パーキンソン病診療ガイドラインと連携することを検討している。執筆者については、中堅、若手の専門家に依頼することを予定している。

広報については、難病情報センターのホームページへの掲載や、患者会への周知をお願いする。さらに、読者アンケートを行って、さらなる改訂に役立てることを検討したい。

E. 結論

本研究班の事業として、パーキンソン病療養の手引きの改訂版を作成することとなった。改訂版でも、前回の療養の手引きを踏襲し、Q&A形式、イラストや図の多用、平易で簡潔な記載とする。一方、改訂版では、非運動症状についての内容をより充実させると共に、薬物療法、手術療法の進歩に対応する。神経変性班内外の有識者の協力を仰ぎ、より多くの患者さんやご家族、医療や福祉の関係者に役立つ手引きを作成する。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

(発表雑誌名巻号・頁・発行年なども記入)

1. 論文発表

- 1) Minds 版 図解 パーキンソン病 やさしい解説 (Web 公開、2014 年) 監修：澤本伸克、高橋良輔 (http://minds.jcqhc.or.jp/n/public_user_main.php)
- 2) 樽野陽亮、高橋良輔：パーキンソン病の疫学と診断。老年精神医学雑誌 25(11)：1199-1208，2014

2. 学会発表(患者向け講演会を含む)

- 1) 高橋良輔：パーキンソン病と P S 細胞研究関係について。パーキンソン病友の会全国総会北海道大会 記念医療講演会、札幌プリンスホテル、札幌 (2014.6.19)
- 2) 高橋良輔：パーキンソン病治療の現状と今後の展望。パーキンソン病の在宅ケア 2014 (NPO 法人パーキンソン病支援センター主催) ひとまち交流館、京都 (2014.7.6.)
- 3) 高橋良輔：パーキンソン病の診断と治療の最近の進歩。第 51 回近畿支部生涯教育講演会、メルパルク京都 (2014.12.6)

H. 知的所有権の取得状況(予定を含む)

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし